

みなさん、ご協力ありがとうございました

本年は、新型コロナウイルス感染症に伴い、大宮まちづくり協議会の行事をはじめ、会合などを中止せざるを得ない状況となってしまいました。みなさま方も、気を遣いながら人々と接しておられるのではないのでしょうか。

来年は、新型コロナウイルス感染症が衰え、今までと同じような生活ができますことを願うものです。

令和3年が明るく、みんなが幸せな1年でありますようお祈りいたします。

よいお年をお迎えください。

大宮まちづくり協議会
会長 田辺次良

大宮まちづくり協議会

5カ年計画作成のためのアンケートにご協力を

大宮まちづくり協議会では、鳥取大学地域学部筒井ゼミの全面的なご協力により、5カ年計画作成のためのアンケートを作成しました。是非、アンケートに答えていただき、5カ年計画作成に反映させていただきます。

詳しくは、別紙のアンケート実施のためのお願いをお読みいただき、ご協力をお願いいたします。

なお、このたびのアンケートは、紙で答えるアンケート形式か、パソコン・スマートフォンで答える形式のどちらかで答えていただくようにしております。

どうかご協力をお願いいたします。

総務学習部より



恭賀新春

幸せな一年でありますようお祈りいたします
本年もよろしくお祈りいたします
令和三年 元旦

大宮まちづくり協議会
会長 田辺次良

《お問合せ》

大宮地域振興センター

〒689-5531
鳥取県日野郡日南町印賀 1516
TEL・FAX (0859)87-0911

Mail: skn0400@town.nichinan.tottori.jp
satoyamaoomiya@sea.chukai.ne.jp
blog: <http://blog.zige.jp/satoyamaoomiya/>
“じげプロ”よりお入りください

編集・発行: 大宮まちづくり協議会 総務部



【編集デスク】

◆年末・年始にはドカ雪とか？ドカ雪が降れば、仕事前に雪かきという一仕事しなければならない。これは、雪国に住んでいる宿命か？◆困ったことは、雪かきだけではない。新型コロナウイルス感染症が全国で猛威を振っている。帰省をためらっておられる方々が多いのではないだろうか？来年は、治まることが一番の願いだ。◆今年も残すところわずか、みなさんのご健康とご多幸お祈りするとともに、新年が明るく楽しい年となることを祈願したい。(青)



印賀駐在所の雪だるまのおまわりさん。小学校1年生の双子の男の子たちの作品です。そして、印賀駐在所の向かいの印賀自治会館には大きな門松が、今年もつくられました。また、12月19日には、まちづくり協議会の主催による「寄せ植え教室」が開催されました。参加されたみなさんのお宅の玄関先に正月バージョンの寄せ植えがきれいに飾られています。みなさま、よいお正月をお迎えください。

前号で(株)ファームイングを取材し、掲載いたしました。今号では、(株)米風土鳥取と秋原の山本靖志さんを取材しました。まずは、(株)米風土鳥取である。

(株)米風土鳥取

平成21年から生産を始めた(株)米風土鳥取は、大阪から来た高橋隆造氏が社長である。米の契約栽培、オーナー制度を中心にして米づくりを行っている会社である。そもそも高橋隆造氏が日南土産にもらったお米が、大阪のお母さんの口に入り、大変おいしかったことが発端で、お米の契約栽培、オーナー制度を中心にした会社を設立。お米は高評価を得て契約面積は順調に広がり、大宮、山上、福栄、日野上、現在日南だけでなく島根県の仁多、三重県の伊賀、新潟県の魚沼地区へと広がっている。11月にはこれらのお米がすべて生山事務所倉庫に集まってくる。そして、ここから全国へ出荷されるシステムである。

大宮地域では、現在作付面積15ヘクタール。米とそばのみを栽培している。現場は3人で、事務員1人の体制である。



(株)米風土鳥取の米づくり3人衆
(左から新田さん、藤原さん、長尾さん)



そばの栽培



イノシシ柵の設置
(鳥取大学の学生たちのボランティア)

41歳から農業を始めた 藤原恵司さん

鉄穴谷に生まれ、大宮で育った藤原さん。高校を卒業し、安来市の(株)日立金属安来製作所に勤務。41歳の時、一念発起して農業の世界に入る。1年間、(株)ファームイングでトマトづくりの研修を行い、家業の農家を継いでトマト生産に取り組んだ。その後、高橋隆造社長に認められ、(株)米風土鳥取に入社し、取締役へ抜擢された。

大宮を担う一人であり、大宮まちづくり協議会の産業福祉部長として只今活躍中である。大きな夢を描いてくれる一人である。

草刈りスーパーマン 新田和之さん

町内上萩山生まれで、上萩山育ちの新田和之さんは、若松鉾山で鉾夫として勤務されていた。ダイナマイトも扱える異色の人。したがって、危険予知やけがの防止には、極めて敏感である。

特に新田さんは草刈り名人。人の3倍くらい速い。目立て、ベルトの寸法と使い方、自分にあった草刈り機のセッティングから始まる。一日中刈っても疲れない方法をマスターした草刈りスーパーマンである。

電気の達人 長尾達也さん

隣町日野町上菅の長尾達也さんは電気関係の達人。室内配線はお手の物。ちょっとした家電なら、バラして直してしまう。電気ししおとし機械やラジコン除草ポートなどが彼の担当である。この間まで夜の南地区に光っていたのがそれ。そこではイノシシの被害は一切出なかった。その技術で米の色彩選別機械を毎日調整している。彼がいないと・・・。

全国一のお米を生産

2018年度、コシヒカリで全国無農薬無化学肥料部門で一番を取ることができた。ここ印賀でもこんな米の生産が可能である。この賞の歴代には、NHKプロフェッショナルにでた石井稔さんや、鉄腕ダッシュをサポートしている米農家遠藤吾一さんなどおられ、このメンバーとやっと同じステージに立つことができた。有名どころで中村雅俊、淳子夫妻や歌手加藤登紀子さん、清原和博事務所などに送っている。

守り続けたい 農地

「米を生産することによって、畦畔の草を刈り、水路をきれいにし、農業を継続することで土地をきれいなまま後世につなげることができるのです。これをさぼると、農地が荒れ、農業のできない状況になってしまう。そうならないように、今できることをやっていきたい。」と農地を守りつづける決意を話してくれた藤原恵司さんです。

大宮地域で唯一の認定農業者 山本靖志さん

大宮地域で唯一個人の認定農業者(農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者)である秋原在住の山本靖志さんは、菅沢地区の秋原、元菅沢、中津合の5haの田圃を耕作されている。高齢化により今後ますます農地を手放す農業者が増えることが予想されるなか、農地の守り手として活躍されている一人である。

「これからも、できる範囲で米作りに挑戦したい。農地を荒らしたくないから・・・。」と熱く語ってくれた。これからの活躍を期待したい。

大宮の農地を守ろう

本年度の日南町の総農家数は865戸、農業就業者数は1206人、40歳以下の就業者数は57人である。農業従事者の減少による耕作放棄地の増加が問題となっており、農業後継者や担い手の育成が急務となっている。

大宮地区には、掲載した(株)ファームイング、(株)米風土鳥取、山本靖志氏が大規模に米作りに取り組んでおられる。このほかにも農地を守るために、努力を重ねておられる農業者はおられる。しかし、農業者の高齢化と後継者不足はとても顕著である。農地を守るための方策を模索していく必要を感じる。そんななか、鉄穴谷地区では、ほ場整備が行われ、大型機械が入る田圃へと変わりつつある。